

6月の果実の見通し

令和元年5月24日現在
山形県東京事務所

品目	入荷量(t)			単価(円/kg)			山形県産前年実績		販売見通し
	前年実績	前年比見込(%)	5カ年平均	前年実績	前年比見込	5カ年平均	前年入荷量(t)	前年占有率(%)	
おうとう	1,313	95%	1,143	1,766	並	1,806	1,151	69.0%	<p>全体的には開花は今年も早くなったが、その後気温が低く推移したことで生育は遅くなっている。</p> <p>山梨産は5月中、下旬から露地物が始まっており、山形産も5月末～6月3日頃から早生種の出荷が始まる。「佐藤錦」は早いところで6月10日頃から出荷が始まる。「紅秀峰」は月末から始まり、ピークは7月に入ってから。秋田産の出荷は、前年は6月半ばから開始となったが、今年は20日頃からはなりそう。</p> <p>今年は前年より出回りは遅れるものの、平年並みの出荷状況である。前年はギフトを含めて早い時期から準備を進めたが、今年は6月下旬の売込みが大事になってくる。</p>
もも類	704	90%	1,103	779	やや高い	667	0	0.0%	<p>ハウス物は前年に比べ、若干遅い生育となっているため、中旬以降だらだら出荷が続く。露地物の出荷は、山梨産が前年より若干遅くなるが、6月15日頃から「ちよひめ」「はなよめ」の販売がスタートする。</p> <p>年明けから天候が良く、順調な生育が続いていたが、4月上旬、5月上旬の低温によって生育が遅れが生じ、前年より初出荷が遅れるも、肥大状況は前年より良い。</p>
ぶどう類	583	100%	564	1,570	前年並み	1,417	9	1.5%	<p>「デラウェア」は、島根産の出荷は6月上旬までで、出荷量は前年を上回る。山梨産は6月15日から、山梨統一共選からJA別の販売に切り替わる。大阪産の出荷も順調で、上旬より出荷量は増えてパック中心の出荷。山形産は生育が若干遅れているが、6月下旬からのスタート。</p> <p>「シャインマスカット」の出荷量は、今年も前年より増加、「巨峰」「ピオーネ」は若干減少傾向となるが、ハウス物総体では7月新盆に向けてピークとなる。</p>
すいか類	10,708	95%	9,916	205	前年並み	203	5	0.1%	<p>前進出荷が続き、熊本産中心の販売が展開され、5月中旬より千葉産の出荷、下旬には茨城産も始まった。</p> <p>6月に入ると鳥取産も始まる。千葉、鳥取産は前年に比べて若干遅い出荷となり、ピーク入りも遅れる見通し。開花時期、着果時期の天候が悪かったため、出荷量は若干落ち込むものの、その後は着果状態が良く、中旬以降は増量傾向となる。</p> <p>こだま西瓜は6月が出荷ピークに入る。群馬、茨城産は順調な出回り。熊本産「黒こだま西瓜」も6月いっぱいはある。</p> <p>神奈川産「マダーポール」は6月25日前後の始まりとなる見込み。</p>

6月の果実の見通し

令和元年5月24日現在
山形県東京事務所

品目	入荷量(t)			単価(円/kg)			山形県産前年実績		販売見通し
	前年実績	前年比 見込 (%)	5カ年 平均	前年実績	前年比 見込	5カ年 平均	前年 入荷量 (t)	前年 占有率 (%)	
メロン類	4,858	100%	5,223	427	やや 安い	396	86	1.8%	<p>一時的に前進出荷が続いたが、4月の低温、5月の曇天にて若干生育が遅れた。</p> <p>5月下旬より熊本産から関東産中心の出荷に切り替わる。例年より出回り時期が早い青肉の「アンデス」「タカミ」と、赤肉の「クインシー」が中心となり、6月に入ると千葉県銚子の「アムス」、上、中旬には北海道産「夕張メロン」が始まる。各品種ともに肥大状況は良く、栽培面積は若干少ないものの、前年並みの収穫量は確保される見込み。</p> <p>6月上、中旬にかけては売り場確保されて安定した販売だが、ノーネット系は販売苦戦が続く。</p>

引用資料:「東京都中央卸売市場における果実の品目別取扱実績」(青果物情報センター)、果実の入荷・市況見通しについて(東京青果株)

入荷量について:「0」はラウンドして1tに満たない入荷があったもの。「-」は本県のデータがないもの(入荷がないか、又は少なかったためにその他の産地に含まれる)